



東京ガス株式会社 2005年度第1四半期決算説明会

2005年7月28日

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。

対前第1四半期比 増収減益

< プラス要因 >

- ・ 気温が低く推移したため家庭用ガス販売量は増加
- ・ 工業用ガス販売量は、新規需要開発および既存物件の稼働増により増加
- ・ 卸供給は引取量増により増加

< マイナス要因 >

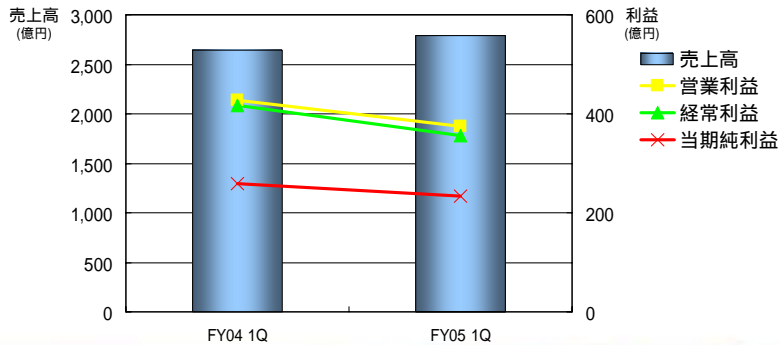
- ・ 原油価格の高騰による原材料費の増加
- ・ 料金引下げによる売上単価の減

- ・ 2005年度第1四半期は、気温が低く推移したことにより家庭用需要が伸び、ガス売上高は増加しましたが、2005年1月より実施したガス料金の引き下げの影響および原油価格が高騰に伴う原料費の大幅な増加により、対前年同期比で増収減益となりました。

決算総括 (対前第1四半期)

(億円未満切捨て)

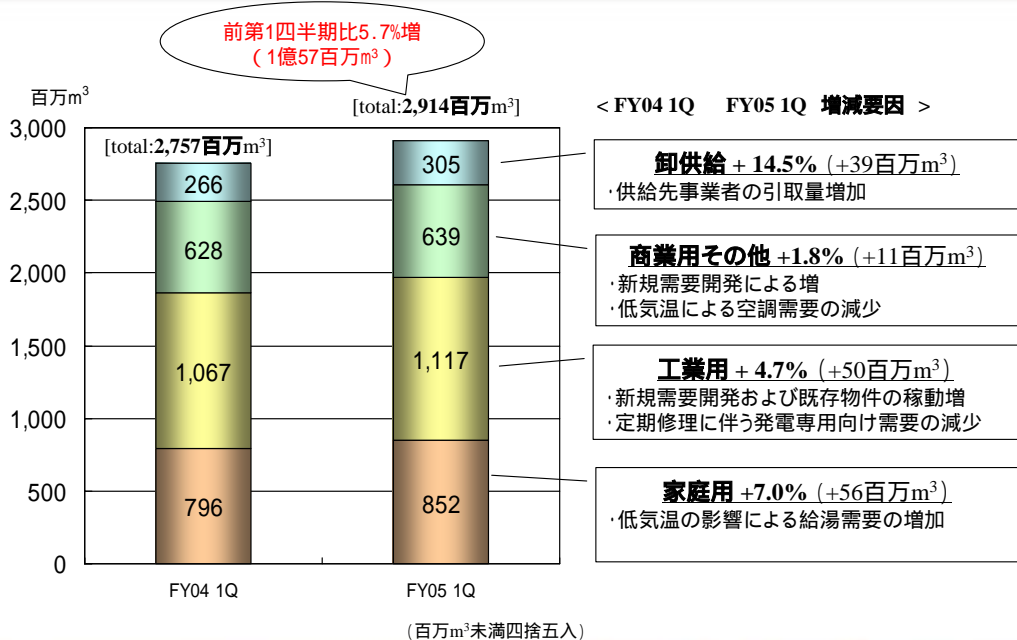
	FY04 1Q	FY05 1Q	増減
売上高	2,645	2,785	+140 (+5.3%)
営業利益	428	374	-54 (-12.5%)
経常利益	417	356	-61 (-14.6%)
第1四半期純利益	259	233	-26 (-9.8%)



3

- ・売上高は対前期比140億円、5.3%増の2,785億円となりました。
- ・営業利益は対前期比 54億円、12.5%減の374億円となりました。
- ・経常利益は対前期比 61億円、14.6%減の356億円となりました。
- ・四半期純利益は対前期比 26億円、9.8%減の233億円となりました。

ガス販売量実績 (対前第1四半期)



4

・ガス販売量は、対前期比 + 1億57百万m³、5.7%増の29億14百万m³となりました。

用途別に見てみますと、

・家庭用は、気温が低く推移した影響により給湯需要が増加し、前年比56百万m³、7.0%増の8億52百万m³となりました。

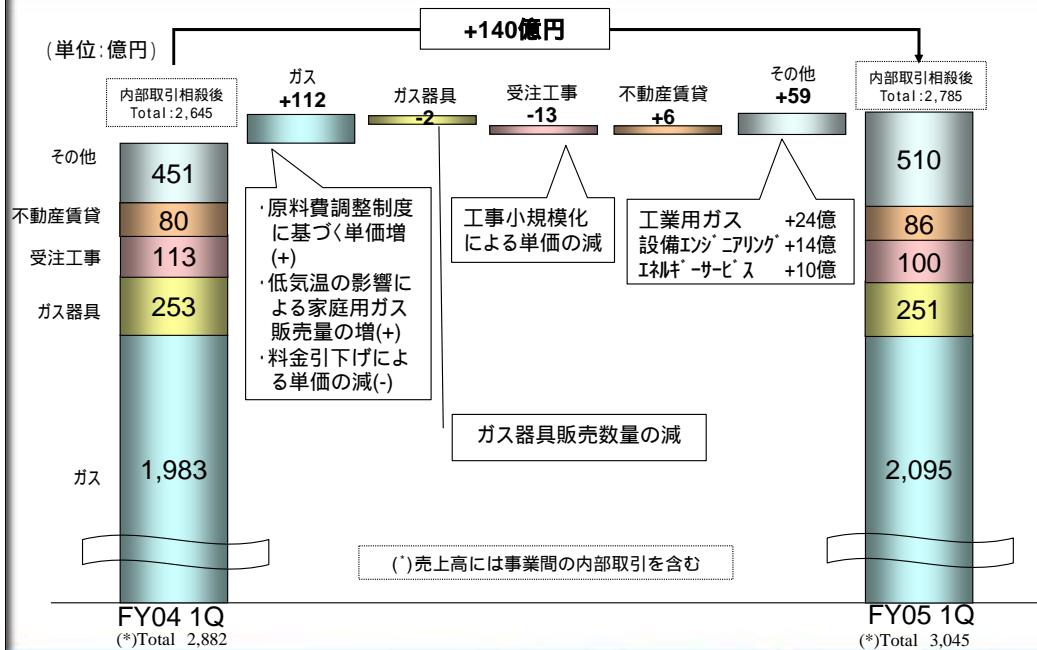
・工業用については、発電事業用需要が定期修理で減少したものの、発電用以外の既存物件の順調な稼働等により、前年比50百万m³、4.7%増の11億17百万m³でした。

・商業用・その他用は、低気温の影響で空調用需要が減少しましたが、新規物件の獲得などにより、対前年で11百万m³、1.8%増の6億39百万m³となりました。

・卸供給については供給先事業者の引き取り量の増加により前年比39百万m³、14.5%増の3億5百万m³となりました。

4

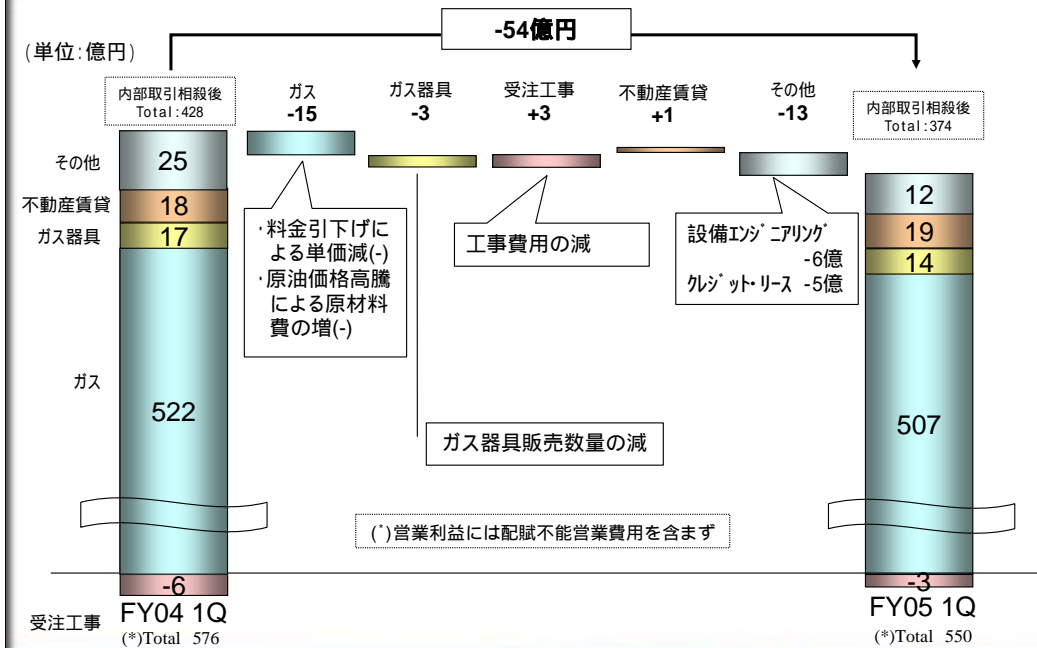
売上高増減要因



5

- ・ガス売上高は2,095億円、対前期比で112億円の増加となりました。
これは、本年1月に実施した料金引き下げの影響はありましたが、低気温により家庭用需要が増加した等、販売量が増加したことに加え、スライド制度により、料金単価が上昇したことによるものです。
- ・ガス器具の売上高は、販売数量の減少により、2億円減の251億円となりました。
- ・受注工事の売上高は、工事小規模化に伴う単価の減少により13億円減少の100億円となりました。
- ・不動産賃貸については、6億円増加の86億円となりました。
- ・その他の売上高については、59億円増の510億円でした。

営業利益増減要因



6

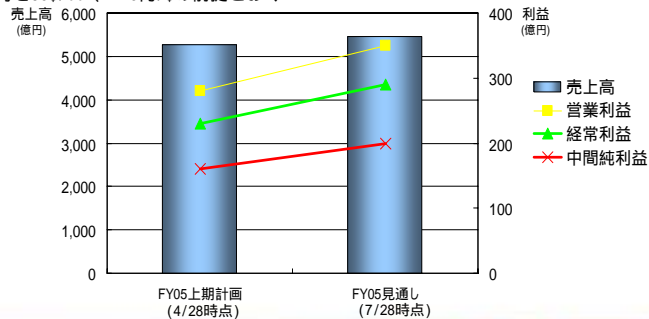
- ・ガス部門については、料金引き下げおよび原料費の増加により粗利が悪化し、前期に比べ15億円減の507億円となりました。
- ・ガス器具部門については、器具の販売数量の減少により、前期比3億円減の14億円となりました。
- ・受注工事については、営業費用の減少により前期に比べて3億円改善し、3億円の損失でした。
- ・不動産賃貸については、1億円増加し19億円となりました。
- ・その他事業につきましては、前期比13億円減の12億円となりました。

2005年度決算見通し (上期、対計画)

(億円未満切捨て)

	FY05上期計画 (4/28時点)	FY05上期見通し (7/28時点)	増減
売上高	5,270	5,460	+190 (+3.6%)
営業利益	280	345	+65 (+23.2%)
経常利益	230	290	+60 (+26.1%)
中間純利益	160	200	+40 (+25.0%)
原油価格(\$/bbl)	40.00	49.84	+9.84
為替(円/US\$)	105.00	108.85	+3.85

(注) 7月～9月を50\$/bbl、110円/\$の前提とおく



7

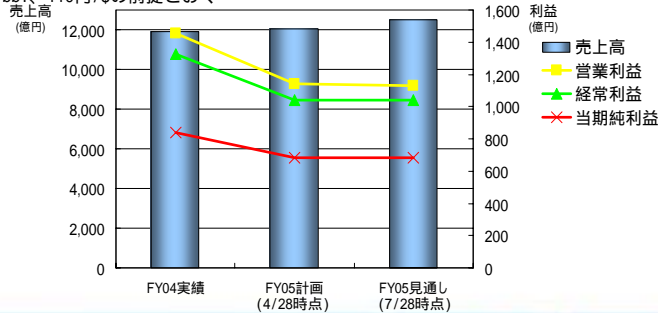
- ・売上高は当初見通しに比べ、190億円、3.6%増の5,460億円を見込んでおります。
- ・費用面では、経済フレームを見直し、7月以降の9ヶ月間の原油価格を1バレル当り50ドル、為替レートを1ドル110円といたしました。これに伴い、原材料費が増加しますが、一方で固定費のさらなる削減を図り、営業利益は、65億円、23.2%増の345億円を見込んでおります。
- ・経常利益および中間純利益に関しましては、それぞれ60億、40億円上方修正し290億、200億円を見込んでおります。

2005年度決算見通し (通期、対前年・計画)

(億円未満切捨て)

	FY04実績	FY05計画 (4/28時点)	FY05見通し (7/28時点)	増減	
				対前年	対計画
売上高	11,907	12,040	12,510	+603(+5.1%)	+470(+3.9%)
営業利益	1,453	1,140	1,130	-323(-22.3%)	-10(-0.9%)
経常利益	1,328	1,040	1,040	-288(-21.7%)	± 0
当期純利益	840	680	680	-160(-19.1%)	± 0
ガス販売量(百万m ³)	11,952	12,076	12,486	+534	+410
原油価格(\$/bbl)	38.77	38.00	49.92	+11.15	+11.92
為替(円/US\$)	107.55	105.00	109.42	+1.87	+4.42
気温()	17.1	17.0	16.8	-0.3	-0.2

(注) 7月～3月を50\$/bbl、110円/\$の前提とおく



8

- ・売上高は当初計画に比べ、470億円、3.9%増の1兆2,510億円を見込んでおります。
これは、主にスライド回収によるガス料金単価の上昇およびガス販売量4億1千万m³の増加に伴うガス売上高の増加によるものです。
- ・費用面では、経済フレームの見直しに伴い、原材料費が大幅に増加し、粗利が悪化しますが、粗利の減少を固定費の削減等でほぼ吸収し、営業利益ベースでは当初見通しに比べ10億円、0.9%減の、1,130億円となる見込みです。
- ・経常利益および当期純利益につきましては、当初見通しどおりとし、それぞれ1,040億、680億円と見込んでいます。